

2022-8-1
No.1079 500円

思想運動

世界と日本、参院選後の政治状況	2～3面
安倍晋三銃撃事件	4～5面
8・15に思う(小出裕章)	6面
イギリスにおける労働者階級の闘い	8面
中南米で続く左派政権成立	9面
連載＝『神聖喜劇』紀行 対馬への旅	10面
映画『ワタシたちハニンゲンダ!』	11面

戦争反対！即時停戦！労働者同士は殺し合ってはならない
東水労、東部労組、全労などが呼びかけて行なわれた反戦アピール労組共同行動（7月13日、東京・JR水道橋駅前）写真提供＝東京東部労組 関連記事三面



現在、六月二十九日から八月四日の期間にかけて、ハワイ諸島およびその近海で環太平洋合同軍事演習「リムパック2022」が行なわれている。主催はアメリカ海軍で、日本、オーストラリア、インドのクアッド参加国に加え、イギリスやドイツ、フランスなどNATO加盟国、イスラエルや韓国も含む合計二十六か国が参加している。また、アメリカ、日本、韓国はその開催に合わせて、「北朝鮮の弾道ミサイルの探知・追尾訓練」として「パシフィック・ドラゴン」を予定する。

アメリカ海軍の五月三十一日の公式声明によれば、「リムパック2022」の目的は「自由で開かれたインド太平洋の促進」である。「リムパック」自体は以前から行なわれているが、「自由で開かれたインド太平洋」という言葉の登場は前回からである。

利便な新植民地主義的経済秩序を推進することにある。その中、「リムパック2022」は社会主義や反帝国主義の道を進めようとする国々に対する構想を強制的に「拳」として機能させる軍事機構、すなわち「アジア太平洋版NATO」の結成のための前段階として行なわれている。インド太平洋を阻止するため「リムパック2022」はどの

国も標的にはしていないと、このがアメリカの公式の言い分である。しかし、アメリカのジャーナリスト・アビー・マーティンが自身の運営する独立系メディア『エンパイア・ファイナル』に七月二十二日付でリークした軍事演習の映像は、別のことを物語っている。その映像では、アメリカ兵とおぼしき兵士が七月十八日に金正日と金正恩の肖像が飾られた朝鮮の民衆に対して銃撃を打ち込む訓練をしている。また、アメリカ・インド太平洋軍の当時司令官フィリップ・デヴィッドソンが二〇一九年九月三十日の演説で「北京は、自由で開かれたインド太平洋を阻止するために権威主義的・共産主義的・

社会主義的イデオロギーを拡散しようとしている」と言っていたように、この構想そのものが当初から中国を敵視しているのは明らかである。中国と朝鮮の見方は厳しい。『人民網』は「中国封じ込めのためのNATOのアジア太平洋化とアジア太平洋のNATO化を推進するアメリカの戦略的企て」（七月五日付）、「朝鮮中央通信」は「アジア太平洋地域でアメリカと日本、南朝鮮が繰り広げる合同軍事演習は何よりもわれわれを狙ったもの」（六月三十日付）とそれぞれ指摘する。いま、とくに警戒が必要なのは西側諸国の中国・台湾地区への干渉であり、台湾を中国に対して差し向けようとする

動きが活発化していることだ。七月十四日にアメリカの下院で、二〇二四年の「リムパック」への台湾地区の「政権」の招待を明記した「二〇二三年度予算案「国防権限法」が可決された。翌日には、トランプ時代の大規模な対台湾武器売却政策を引き継いだバイデン政権が、就任後五回目の武器売却を行なっている。日本でも、「台湾有事は日本の存続に関与する」という理由で、自衛隊の台湾派遣が検討されている。また、日朝平壤宣言（二〇二二年九月十七日）二〇周年でもある。その両方で、日本側は過去の侵略を反省すると約束した。われわれ労働者人民は、これを反故にする支配階級の野蠻な企図に抗して、日中友好・日朝友好の旗をはたきつりとかかげよう。東アジアの平和はそれにかかっている。【大村蔵二】

神奈川で大衆運動をめざして 高梨晃嘉 共同行動のめざすところ

参議院選挙は改憲勢力が三分の二を占める結果となった。今後、改憲勢力は「黄金の三年間」内で大軍拡と改憲発議・国民投票の動きを速めることになる。われわれは、参議院選挙をどう総括し、改憲（参議）阻止のたたかいをどう作り上げていくのか。「大方の予想通り」とか「選挙共同体制の構築が不十分」などの抽象的な総括で終わらせてはならない。改憲勢力が二月末のウクライナ戦争以来、ウクライナへ戦争継続の支援を行ない、軍事費のGDP比倍増、敵基地攻撃能力保有、緊急事態条項創設など改憲の必要性を煽り、世論の右傾化が進行した。他方、これら反